

事業名

## 校区一斉クリーンキャンペーン

目標

中学校区の児童・生徒と地域・PTAが連携し、校区の環境整備を行い、奉仕の気持ち、感謝の気持ちを育てる

### 1. 取組の視点

本地域は、奈良市西部地域の人口増加に伴い、その解消として開発され、学校や住宅が次々に建設された。学研奈良登美ヶ丘駅も完成し、隣接地での大型店舗の営業と共に各種商業施設が造られ、人の動きも多くなってきた。その半面近隣の団地や開発当初の地域では、世代交代が進み高齢者や1人住まいの増加といった新たな課題も生まれてきている。このような学校を取り巻く環境の大きな変化の中で、学校と地域・家庭が共に共働しながら、地域及び学校の活性化を図るとともに、生徒の健全育成に努め、地域とのコミュニケーションの強化を図る。

### 2. 取組の概要

幼稚園では、季節の行事を大切に、地域との連携が図られた。お茶会では、すすんで挨拶をする、人の話を落ち着いて聞く、好きなことに集中して



取り組む、様々な人とのかかわりを楽しむ気持ち、周りの人と支え合う気持ちを身につけること等をねらいとして実施された。小学校では、校内及び学校周辺の環境整備に取り組み多くの保護者・地域ボランティアの参加が得られた。この作業で、今年度の予算で購入したリヤカーがゴミの収集で活躍した。中学校としては、地域との連携強化及び、学校と地域の活性化を図る取組として、今年度より、収穫祭を立ち上げた。本校敷地内にある学校菜園の余剰畑を地域に開放し、共に育て

収穫した野菜を使った料理を作ることとした。夏の収穫祭は、畑で収穫したジャガイモや玉ネギを



使ったカレーライス。秋の収穫祭は、里いもとネギでも煮を作った。いずれも地域のボランティア・PTAの協力で開催することができた。毎回地域からは、20名から30名のボランティア参加の協力があり、生徒・保護者を加えると240名の参加を得た。食事のテーブルは、今回の「地域で決める学校予算」で作成したものを有効活用した。中庭にテーブル10台を並べ、一度に100名が食べられるよう配慮した。おかげで、いろんな人たちとのコミュニケーションの輪が広がり、新しい触れ合いが誕生した。学校菜園を活用して、学校と地域の連携が少しずつ深まり、校区がまとまることに一歩近づいてきたように感じる。

### 3. 成果と課題

学校菜園を地域の方々に開放したことで、たくさんの方が学校を訪れ、生徒達の見守りや安全対策にも繋がった。校区の他団体から次年度は、共に参加させて欲しいという申し出もあり、この取組が地域全体への広がりとなれば、人々のコミュニケーションが深まり、地域・学校・園の活性化へと繋がるのではないかと考える。このことで、学校・園と地域の橋渡し役である、コーディネーターの仕事が円滑に進み、ボランティアの確保もずいぶん進むのではないかと考える。

事業名

## 豊かなきらめきと心を

目標

異年齢集団の中で社会性を高め、個性の輝きやきらめきのある自己表現力を養うとともに心を育てる

### 1. 取組の視点

本地域は、奈良市西部地域の人口増加に伴い、その解消として開発され、学校や住宅が次々に建設された。学研奈良登美ヶ丘駅も完成し、隣接地での大型店舗の営業と共に各種商業施設が造られ、人の動きも多くなってきた。このような学校を取り巻く環境の大きな変化の中で、学校と地域・家庭が共に共働しながら、地域及び学校の活性化を図るとともに、生徒の健全育成に努めることが求められている。このような課題を解決していく方途として、体験的な活動（平和学習・地域発見・職業体験・異文化体験）を通して、自分自身や地域の課題について考え、自分自身を見直す取組とした。

### 2. 取組の概要

1年生では、地域発見の取組として世界遺産学習も兼ねた、奈良まち散策を実施した。また、障



害者理解学習では、盲目で車椅子生活しながら自らの世界観を人間味溢れる音楽で伝えておられる方の心を感じ取ることができた。さらに、1年生では、異文化理解として、韓国・朝鮮の文化をチャング・プチェチュム・ヨン・チヂミ作り・伝統遊びを通し文化の違いを学ぶことができた。2年生では、キャリア教育の一環として111名が、33事業所で3日間の職場体験に取り組んだ。「初めての職場体験は緊張したけれど、職場の皆さんのやさしさに助けられた。」等の感想が寄せられた。

3年生では、性教育として「自分のために、皆のために、生と性について考えてみよう」というテーマで取り組んだ。奈良県助産師会の出前講座



として助産師を招き講演をいただいた。生徒からは「今日の話聞いて、今自分がいるのも友達がいるのもすごい確立なんだと思った。ビデオを観ていると、お母さんはすごく辛そうで大変そうだったけど、赤ちゃんと会った時、泣きそうな声でとっても喜んでいました。自分のお母さんもあんな感じだったのかなと嬉しく思いました。」の感想が寄せられました。また、文化祭や体育大会等の学校行事では、それぞれの企画実行委員会が中心となり、行事の企画運営に取り組んだ。

### 3. 成果と課題

さまざまな体験学習をとおして、取組の視点でもある「自分自身や地域の課題について考え、自分自身を見直す」という活動ができ学習が深まった。3年生の沖縄修学旅行では、これらを学んできた3年間の集大成としての学習につなげることができた。本校教育は3年間を見通した年間教育にのっとり進められ、生徒の発達段階に応じた取組がなされてきた。これらのことを次年度も「地域で決める学校予算」を活用し更に進めたい。学校評価の生徒用アンケートの中に「学校へ行くのが楽しい」という項目があり、[Aよくあてはまるが]60%を示した。この値が更に70、80%と上がるように努めていきたい。

事業名

**地域と共に「登美小ふれあいルーム」**

目 標

**「登美小ふれあいルーム」を設け、読書活動や地域の方とふれあったりしながら心豊かな登美小の子どもを育てる****1. 取組の視点**

本校では研究テーマを「豊かな心をもち、共に高め合える子の育成をめざして」として研究を進めており、今年度はその2年目になる。1年を経過し、お互いに思いやりをもつ場面が少し見られるようになってきたものの、まだまだ、いじめや規範意識の低下など、問題が多く残っている。

今年から実施された「地域で決める学校予算」を活用して、地域の方の力を借りながら、豊かな心をもつ登美小の子どもを育てていきたいと考えた。

**2. 取組みの概要**

本校で従来から多目的教室として使用していた教室の一つを、子どもたちが地域の方々とふれ合える「登美小ふれあいルーム」として開設した。

図書や紙芝居を充実させるとともに、学校支援地域ボランティアの皆さんに読み聞かせや劇をしてもらったり、子どもたちの読書活動を推進したりする活動に取組んだ。

また、今後はもっと地域の方同士や子どもと地域の方のふれあいの場にしていきたいと考えている。

**3. 成果と課題**

図書を充実させて子どもたちの読書活動を推進させることができた。学校地域支援ボランティアの方々に本の読み聞かせをしていただいた。子どもたちの読書に対する興味関心が高まった。また、図書の修理についてもボランティアの方々に「登美小ふれあいルーム」を利用して、作業をしていただいた。子どもたちも、ボランティアの方々と触れ合う機会が多くなり、まさに「地域の方と触れ合いながら心豊かな登美小の子どもを育てる」という目標にせまれたと考える。

しかし、まだ活動の頻度や人数は十分とはいえない。今後は、広報活動を充実させ学校地域支援ボランティアの方々を広く募集していく必要がある。

事業名 **花いっぱい、夢いっぱい**

目 標 **校内に四季折々の花を植え、子どもや地域の方の心が和む  
環境を整える**

### 1. 取組の視点

本校の校章は桔梗の花。校歌にも「花を愛する者はよし」とある。この校風は、創立当初から受け継がれており、緑豊かで草花が咲き誇る本校の校風になっている。そして、子どもたちの心が和む学習環境にもなっている。

このことを継承するためにも、「地域で決める学校予算」事業を活用し、地域の方の協力を得ながら取り組んでいきたいと考えた。

### 2. 取組の概要

当初は、まず1回目として夏前に秋に咲く花を植え、その後2回目として秋に、冬から春に咲く花を植える予定であった。しかし、今年は本校の本館が耐震補強工事になり、夏前は玄関横の本館南花壇が使えない状態であった。

そこで、2回目として計画していた冬から春にかけて咲く花（パンジー、ビオラ等）を秋に植えることにした。

学校地域支援ボランティアの方々を中心に計画を立てていただき、数回の話し合いを経て、12月9日によりやく植えることができた。

その後は、水やりを園芸委員会の子どもたちが受けもち、地域支援ボランティアの方々は2週間に1回程度、手入れをしてくださっている。



### 3. 成果と課題

新しくなった花壇に、地域の方の手で花を植えていただき、その花に子どもたちが水やりをし、また、地域の方が手入れをしていただく。この取り組み自体が、まさに、地域と学校を結ぶ取組になっている。そして、地域の方と子どもたちの触れ合いを通して、心豊かな登美小の子どもを育てることにつながったと考える。

今年は、本校の耐震補強工事や予算の執行開始時期の関係で、本事業の活動が限定的になったが、来年度は引き続き、地域の方との触れ合いを大切にしながら環境を整えていきたい。

また今後は、花壇等の環境整備活動だけでなく、様々な場面での学校支援をお願いできるボランティアの方を発掘していかなければならないと考えている。

事業名

## 体験的・集団的な学習の推進

目標

命と人権の大切さを感じてできる体験的学習と自主的な集団活動等を通して生きる力を培う

### 1. 取組の視点

日々の学習で身につけてきた基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決していくための思考力・判断力・表現力を育み、主体的に学習や様々な活動に取り組む態度を養うためには、体験的な学習や体験的な活動の充実が必要であると考え、事業名－1を「体験的・集団的な学習の推進」とした。

### 2. 取組の概要

生活科や総合的な学習の時間および児童活動等においてゲストティーチャーを招き、生活に役立つ生きる力を身につけさせるための体験的学習や体験的活動の充実を図るとともに、栽培活動や奉仕活動を通して働く喜びや奉仕の精神を学び、実践する力を育てるための取り組みを行った。

- ・低学年は、「英語で遊ぼう」と題し、2回にわたってゲストティーチャーを招き、楽しく英語活動を行った。
- ・中学年は、社会科や総合的な学習の時間に「バター作り」「花器作り」「福祉体験」「筆作り」「餅つき・かき餅作り・かき餅焼き」等の体験的学習や体験的活動を行った。



- ・高学年は、総合的な学習の時間において、日本の伝統的な茶道を通して礼儀作法を学ぶ「お茶会」を体験した。



### 3. 成果と課題

「生活科」「総合的な学習の時間」を中心に問題解決的・体験的学習や体験的活動に重点を置き取り組んだ。子どもたちは、新しい気づきや発見に目を輝かせ、学習を進めることができた。

このことにより、知的探究心や問題解決に必要な思考力、判断力、表現力などを高めることができた。また、学習の過程で地域の方々やそれぞれの分野で活動されているゲストティーチャーの方々とのかかわりやふれあいを通して、意欲的・主体的に学習を深めるとともに、よりよい自分の生き方を考えることができた。外部評価においても、「体験的学習・体験的活動に重点を置かれ、子どもたちにとって学習したことがしっかりと身につき、いい思い出となるでしょう。また、外部人材も豊富で適切に招致されている。」と、高い評価を得ることができた。

事業名

## 豊かな心を育む文化創造

目標

読書や文化鑑賞等を通じて、児童の表現意欲及び表現力の向上を目指す

### 1. 取組の視点

本校児童は、低学年の頃より塾や習い事に通い、高学年になるにつれて時間に追われる忙しい生活を送っている。さらに、遊びの質的变化により、従来、遊びを通して身につけることができていた人と人とのかかわりが不足している。このことから、読書活動や文化鑑賞等の様々な活動を通して「豊かな心」「豊かな人間性」を育んでいくことが必要であると考え、事業名-2を「豊かな心を育む文化創造」とした。

### 2. 取組の概要

(読書活動)

- ・学級文庫の充実・整備を行い、朝の読書タイムや読書の時間等を設定し読書活動を進めた。

(文化鑑賞活動)

- ・地域の人形劇サークルを招き、人形劇鑑賞会を実施し、人形劇の楽しさを十分に感じることができた。
- ・お話の会の方々を招き、本の読み聞かせを行った。巧みな語り口に、子どもたちはお話の世界に引き込まれ読書への関心を高めていった。
- ・校内作品展を実施し、互いの取り組みを伝え合い鑑賞し合いながら、豊かな感性を養った。



- ・校内音楽会を開き、日頃の練習の成果を発表しあった。子どもたちの取組は意欲的で一生懸命発表していた。保護者の方々の出席もたいへん多くの良い感想をたくさんいただいた。
- ・マリンバの演奏家の方々に来ていただき、すばらしい演奏を聴くことができた。子どもたちは最初から最後までとても興味を持って熱心に聞き入り、貴重なひとときを過ごすことができた。

### 3. 成果と課題

図書を整備し読書環境を整えることにより、学級文庫の蔵書数も増え、子どもたちの読書量も増えてきた。落ち着いた読書活動は、子どもたちの情操に好影響を及ぼしている。

お話の会や人形劇等の豊かな表現方法に触れることにより、子どもたちの表現にも意欲的な取り組みが出てきた。また、校内作品展や音楽会、音楽鑑賞会等の活動を通して、子どもたちの情操や豊かな心を育むことができたと考える。

事業名

**わくわく、どきどき、夢いっぱい幼稚園**

目標

**様々な感動体験をする中で、豊かな心や意欲を育て、  
たくましく生きる幼児の育成****1. 取組の視点**

核家族化、少子化、保護者の価値観の違い等から、地域の人々とのかかわりや自然に触れる機会が少なく、様々な体験が不足している幼児が多い実態がある。そこで、園内外の身近な環境（人、物、自然）とのかかわりから興味や関心を広げ、心に響く体験を積み重ねることで、豊かな心を育み意欲的に活動する幼児を育てたいと考えた。年間計画を見直しながら実践していくことや家庭や地域へ幼稚園教育の理解を深めるために連携や発信の仕方を工夫することに取り組んでいきたいと考えた。

**2. 取組の概要****地域の教育力を取り入れて**

サッカー教室、書き方教室、お話の会、音楽紙芝居、人形劇観劇などを指導計画に位置づけ継続的に実施してきた。サッカー教室では、地域のサッカーチームのコーチや中学生にボールの蹴り方やドリブルの仕方等を教えていただいた。

一人一人に「ナイスシュート」と声をかけ“ハイタッチ”する等楽しい雰囲気の中で教えていただき、友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを体感した。自分たちでサッカーゴールを出し、サッカーをする幼児が増えた。また、書き方教室では、鉛筆の持ち方や姿勢を正しくすること等を丁寧に繰り返し教えていただいた。落ち着いた気持ちで机に向かい、真剣な表情で線をなぞったりひらがなを書いたりしていた。

お話の会、音楽紙芝居、人形劇観劇では、話の内容に興味をもち集中して話を聞く態度も身に付いた。人形やペープサートをつくって遊びや生



活発表会に取り入れて遊ぶ姿も見られ、自分たちの生活に生かすことができた。

**親子で楽しむ幼稚園**

親子で一緒に感動体験を味わってほしいと願い、「親子栽培」「親子カプラで遊ぼう」「親子お茶会」「親子園外保育」等の親子活動を多く取り入れました。毎月実施している保育参観を保育参加型にしたり、期間参観を設けたりした。

親子栽培では、すすんで畑に野菜の生長の様子を見に行く保護者も増え、草引きも手伝っていただいた。収穫も親子でして、家庭でも味わっていただいた。幼児も野菜を洗ったり切ったりするを経験し、「みんなで食べるとおいしいね」と収穫祭も行った。



親子カプラで遊ぼうでは、魔法の板“カプラ”を使い、親子や友達と協力したり助け合ったりしながら並べたり積んだりして時間のたつのも忘れて遊んだ。親子お茶会では、落ち着いた雰囲気の中で日本の伝統文化に触れることができた。

**3. 成果と課題**

すすんで挨拶をする、姿勢を正しくする、人の話を落ち着いて聞く、好きなことに集中して取り組む、様々な人とのかかわりを楽しむ気持ちや周りの人と支え合う気持ちなどが身に付いてきた。充実感や満足感を味わうことで自信につながり、友達との遊びや表現活動、言葉の面など総合的な成長がみられた。親子活動は、幼稚園教育の理解や啓発につながった。

今後も幼児一人一人が充実した日々を送れるよう幼稚園、家庭、地域が連携し、豊かな体験や交流を積み重ねていきたい。

事業名

## ふれあいいっぱい 楽しい幼稚園

目標

子育て支援の拠点としての幼稚園作りを目指す

### 1. 取組の視点

幼稚園が子育て支援としての場と役割を担うため保護者や地域の人々と連携した体験活動を取り入れ、共に育ち合う幼稚園作りを目指し取り組みを進めてきた。

- ・地域の方々との交流
- ・未就園児との触れ合い
- ・保護者保育参画
- ・小学校・中学校との連携

などを通して、感動体験を共有し豊かな心を育むことに重点をおき実践してきた。

### 2. 取組の概要

【地域の方とのかかわり】

地域の老人会の方々を招き、昔遊びを教えてもらったり、楽しい話を聞いたりしました。歌や合奏をきいてもらった後、ゆっくりと話ができるように、グループ



に分かれて座っていただいた。「どこからきたの?」「なにがすき?」など子どもたちからの質問や「上手に歌ってたな。」と高齢者の方に褒めてもらうなど会話が弾んだ。「子どもがいないので、あまり話したことがなかったけれど、子どもってかわいいね。」とにこにこして帰られた方もおられた。高齢者のゆったりとした口調や優しいまなざしが穏やかな雰囲気をつくり子どもたちの心にも温かさが伝わってきた。

また、お茶会やお話の会、英語で遊ぼうなど地域の方の支援で心に残る体験をかさねることができた。



【未就園児との触れ合い】

2歳・3歳の未就園児を対象に園庭開放を、3歳児を対象に園行事への参加や在園児との交流を行ってきた。

「一緒にあそぼ」「なにしたいの?」と言葉をかけるなど未就園児との触



れ合いを通して園児に優しさやいたわりの気持ちが育ってきている。また、未就園児親子には、七夕飾り作りやもちつきなどの参加を通して伝承行事を知らせ、親同士、子同士の交流ができるよう環境を整えてきた。「また、遊ぼうね」と親子同士の広がりが見ら

れた。



### 3. 成果と課題

子どもたちは、いろいろな人との触れ合いを通して多様な経験をする中で、人の温かさや優しさに触れ、心が豊かになるとともに、人に対して親しみの気持ちや敬う気持ちが育ってきている。これらの経験が自信につながり、初めてのことにも積極的にかかわろうとする様子が見られるようになった。

また、保護者や地域の方々とも充実した時を過ごし、感動体験を共有することができた。

今後も子どもたちが心豊かに育つように地域や家庭・幼稚園が連携して支援し、子どもたちの生きる力につなげ、子育て支援の発信の場となるように内容の充実を図っていきたい。